

第2学年 道徳科学習指導案

日 時 令和3年11月10日(水) 1校時

学 級 2年2組(男子14名 女子13名 計27名)

会 場 2年2組教室

指導者 吉田 実優

1 主題名 誰かのために【D(22)よりよく生きる喜び】

教材名 「六百リットルの水」(出典:岩手県道徳教育郷土教材集「ふるさといわての心 中学校編」)

2 主題設定の理由

(1) 生徒について

本学級の生徒は男女共に仲がよく、日常生活や行事を通して、何事も学級の全員で力を合わせて乗り越えたり、お互いに高め合ったりしていこうという気持ちをもって生活している。また、時間をしっかり守ることや話を聞く態度など、基本的な生活習慣を大切にしている。

しかし、気付かないうちに自分のことを優先してしまったり、自分の言動が周囲に与える影響を考えずに発言や行動をしたりすることもある。

これから、全校のリーダーとして活動する場面が増え、今まで以上に自分以外のことを考える必要がある中学2年生という時期の生徒には、自分一人では生きていけないことに気付かせ、そのときに必要な考え方を養いたい。本教材は、自分を犠牲にしてまでも他人のことを思いやっていた大人たちの姿と、よく考えずに行動してしまった自分の姿とを比べ、後悔する主人公の姿に自分自身を重ねることで、自分の未熟な考えや行動に気付かせることができると考える。また、生きていく中で誰も自分の弱さや醜さに直面することがあるが、主人公が涙を流す姿などを通して、自分の弱さや醜さに気付いたとき、自分を奮い立たせてまた進んでいく強さを人間は持ち合わせていることにも気付かせることができると考える。

そこで、本教材を通して、弱さや醜さは誰にでもあることだが、それに直面する度に自分を奮い立たせて乗り越えるということを繰り返し生きることの気高さに気付かせたい。そして、自分の言動が周囲に与える影響を考えながら生活することで、周囲に気を配り行動したり、一度頭で考えてから発言したりできるような力を身に付けさせ、自分なりのよりよい生き方を考える機会としたい。

(2) 道徳的価値について

本授業は、中学校学習指導要領における内容項目D(22)「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。」に基づいて指導するものである。

中学校の段階では、人間が内に弱さや醜さをもつと同時に、強さや気高さを併せてもつことを理解することができるようになってくる。人は誰もが弱さや醜さをもっている。自分の利益や都合、好き嫌いを判断基準にしたときに行動として表出すると考えられる「弱さ」や、他者と比べ優劣を判断基準にしたときにいざ感情や行動として表出すると考えられる「醜さ」。これらを含めたありのままの自分を受け入れることは大人でも難しい。まして、子どもから大人へと成長する過程で悩みも多い中学生にとってはなおさらである。一方で、学年が上がるにつれて、崇高な人生を送りたいという人間のもつ気高さを追い求める心が強くなり、堂々と生きていきたいという気持ちをもつことができる時期でもある。この時期は、頭では分かっているけれどできないということの他にも、自分の気の赴くままに行動し、周りの状況をさほど考えずに行動してしまうという部分をどうにかしたいという気持ちもあるのではないだろうか。悪気はないが、自分の言動が周

りに与える影響をよく分かっていないままに過ごし、後から後悔することも少なくないはずである。

そこで、弱さや醜さだけを強調したり、弱い自分と気高さの対比に終わるだけではなく、自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近づけることに目を向けられるようにしたい。また、後悔から学ぶこともたくさんあるが、大人へと成長する中で、自分自身の言動が周りに与える影響やそのことが、その後の自分に返ってくることを事前に予測し、よりよい自分、よりよい選択、よりよい生き方を目指し、誇りをもって生きていくことの大切さに中学生にも目を向けてもらいたいと考える。

(3) 教材について

本資料は、東日本大震災の直後に被災地に向かう中学生の話である。内陸部に住み、被災の状況にさほど関心のなかった主人公が現地に赴き、被災地の状況を知ると共に、そこに生きる人々の強さや気高さに触れる資料である。水を長時間かけて戻ってまで届けようとした父、それに感謝と申し訳なさで涙を流す祖父、水をなかなか受け取らない大船渡の人たちの言動と、途中コンビニに立ち寄った主人公の行動が対比される。それらの言動に隠された思いや考え方に迫る中で、人間としてのよりよい生き方を考えることができる。

震災に関わる話ではあるが、被災の有無に限らず、中学生にありがちな人間の弱さに向き合うことができる。登場人物のその後の生き方を考えることで、最後には自分自身のよりよい生き方を考える機会としたい。

3 主な教育活動との関わり

活動	時期	内容
保健体育	7月	傷害の防止

4 本時の指導

(1) ねらい

人間には苦しい状況でもそれを克服する強さや気高く生きようとする心があることを知り、人としてよりよく生きようとする態度を養う。

(2) 研究内容との関わり

研究内容	具体的な手立て
① 生徒が本音を表現するための発問、ツール、学習形態の工夫	<ul style="list-style-type: none">・簡単な問いかけを重ねたり、自分の体験を交えたりすることで、生徒が共感しながら、本文にはっきりとは書かれていない主人公の思いを考えることにつなげる。・登場人物の思いや行動に立ち止まり、議論させることで、弱さや醜さと向き合えるような本音を引き出すことにつなげる。
② 中心発問から逆算した授業づくり	<ul style="list-style-type: none">・前の発問までで、生徒が共感しやすい主人公とは対照的な言動をする登場人物たちを丁寧に追うことで、中心発問に円滑に取り組めるようにする。

(3) 評価の視点

人間は誰も弱さや醜さをもっていること、しかし、苦しい状況でもそれを克服する強さや、後悔することがあっても諦めずに気高く生きようとする心があることに気付き、自分の見方・考え方を深めている。

(4) 展開

段階	学習活動と主な発問 (◎中心発問 ○基本発問 ◇補助発問)	予想される生徒の反応	指導上の留意点 (・) 評価 (□)
導入 5分	<p>1. 教材や価値への関心を高め、課題意識をもつ。</p> <p>○1日にどのくらいの水を使っているか。</p> <p>◇どんなことに水を使う？</p> <p>◇日本人の平均 2140 (令和元年度) ってどのくらいの量？</p> <p>・1個分のポリタンクの水を準備するのにかかった時間を話す。</p>	<p>・摂取する水は約3ℓ (非常時の備えとして保健体育で学習済み)。</p> <p>・10ℓ くらい。 ・50ℓ くらい。</p> <p>・100ℓ くらい。</p> <p>・飲料水/炊事 ・お風呂</p> <p>・トイレ ・食器洗い</p> <p>・洗濯</p> <p>・結構たくさん。</p> <p>・重い。 ・思ったより多い。</p> <p>・結構使っている。</p> <p>・4分。</p>	<p>・飲んだり食事から取ったりする水は3ℓ。生活に必要なのは2000～3000ℓ。(令和元年度日本人平均は2140ℓ)</p> <p>・水を入れた20ℓポリタンク1個分を準備して見せる。水を入れ、実際に生徒に持たせて感想を聞く。</p> <p>・この後、時間をかけてでも6000ℓの水を準備したこと、それを2回もやったことの肉体的な苦勞も含めた大変さを想像させることになげたい【手立て①】。</p>
展開 40分	<p>2. 「六百リットルの水」を読んで話し合う。</p> <p>○父は、もう一度くみ直してまで水を届けようとしたとき、どんな思いでいたのだろうか。</p>	<p>・困っているみんなを助きたい。</p> <p>・大変な思いをしている人がいて自分がかくじけている場合ではないから、自分にできることはやろう。</p> <p>・被災地の状況を見てしまった以上、動かずにはいられない。</p> <p>・困っている人がいるなら、大変でも自分にやれることはなんとしてもやるしかない。</p> <p>・きついことは分かっているが、それよりもなんとかして助きたいという思いの方が強い。</p>	<p>・父は、水をもう一度届けるのは非常に大変であると分かっているが、それと同時に、被災地の大変な状況を目の当たりにした後だということも踏まえさせたい。</p> <p>・父の大変さとして、重さや時間という肉体的なもの、被災地の道を慎重に運転する精神的なものがあることを想像させたい。</p>

展開 40分	<p>○なぜ、大船渡の人たちはなかなか水を受け取らなかったのだろうか。</p> <p>◎祖父の言葉を聞き、コンビニの袋を見つめ、涙を流したとき、私はどんな気持ちだったのだろうか。</p> <p>3. よりよい生き方について考える。</p> <p>○涙を流した主人公は、この一日を通してどのようなことに気付いたのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・すでにみんなで分け合って水があったから。 ・自分だけがもらうのは申し訳ないという気持ちがあったから。 ・自分たちよりも困っている人がいるかもしれないと遠慮したから。 ・より苦しい思いをしている人たちを優先してほしいと思いやったから。 ・自分たちよりも大変な思いをしている人たちに使ってほしいと気遣ったから。 ・人を思いやる祖父達の行動を知り、何も分かっていなかった自分をふがいなく思った。 ・自分のことしか考えていなかった浅はかさに気付き、自分の行動を恥ずかしく思い、後悔した。 ・大船渡の人たちの行動と自分がコンビニでとった行動、そこで満足げになった自分を比べ、人としての小ささに情けなくなった。 ・助け合いの心を忘れない。 ・他人への思いやりをもてないような、浅はかな行いをしない。 ・自分のことだけを考えないで周りの人にも気を遣う。 ・後悔しないようによく考えて生活する。 ・自分の弱さに負けないで生きる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大変な思いをしてまで水を持ってきてくれた人に、自分ならどう思うか（感謝）を考えさせる。さらに、水はいくらあっても足りないということを想起させた上で、多くの人が受け取らなかったこと、受け取っても隣人に譲っていたこと（赤いバケツの動線に着目させる）を確認し、大船渡の人たちの行動に隠された心情に迫る【手立て②】。 □一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。 ・コンビニの袋を見つめていたとき、どんなことを思い出していたのかを振り返る。その上で、祖父や大船渡の人たちと自分の行動を比べて、涙を流したことに気付かせる。 ・中心発問で涙を流した主人公の気持ちを考えた上で、よりよい生き方につながる主人公の気付きに着目させる。それらを交流することで、それぞれのよりよい生き方に触れさせる【手立て①】。 □道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。
	終末 5分	4. 授業の振り返りを記入する。	<p>【振り返り（感想）文例】</p> <p>「自分がお世話になっている人たちに感謝の気持ちを忘れずに過ごしたい。」</p> <p>「困っているときこそ自分のことだけでなく、周囲のことも考えて生活したいと思った。」</p> <p>「あとで自分の行動を恥じたり後悔したりしないように、周りのこともよく考えて生活を送りたい。」</p> <p>「弱さや醜さがあるのは仕方ないが、それに負けずに何度も乗り越える強さを持って生きていきたい。」</p>

(5) 板書計画

